

令和5年度第3回かながわ次世代エネルギーシステム普及推進協議会 議事要旨

1 開催日時・会場

令和5年11月20日（月）14：30～14：53 WEB会議（Zoom）

2 要旨

(1) 挨拶

○ 県（柏木脱炭素戦略本部室長）

- ・ この協議会は、次世代自動車の普及推進方策の検討や、水素、燃料電池の普及拡大に関することを所掌事項として、自動車メーカーや水素関連事業者、国、自治体、学識経験者らで構成している。
- ・ 今年度、第1、2回協議会では、この協議会が主体となって作成した「神奈川の水素社会実現ロードマップ」を、新たに「神奈川の水素ビジョン」という形で見直す作業を行っている。
- ・ 前回9月4日の第2回協議会では、この水素ビジョンの骨子案について審議いただいた。その際のご意見等を踏まえ、今回新たに水素ビジョンの素案を作成した。後ほど、議題の中で皆様と協議させていただきたい。

(2) 議事

○ 協議会事務局（県脱炭素戦略本部室） 協議会設置要綱等の改正について

- ・ 協議会事務局から資料2-1～4に沿って説明し、了承を得た。

（新たに協議会会員となった関東経済産業局から挨拶）

- ・ この度、本省に代わって協議会に参加させていただくことになった。当課は臨海部に代表される大規模な水素サプライチェーンの構築、内陸部での水素モビリティの推進等を担当している。テーマに応じて当局の自動車室や本省と連携し、本協議会を通じて取組を進めて参りたいと思っているので、よろしくお願ひします。

○ 協議会事務局（県脱炭素戦略本部室） 神奈川の水素ビジョン（素案）について

- ・ 協議会事務局から資料3-1～3に沿って説明。

○ 意見交換

【内田氏（東海大学）】

- ・ 県としてかなりしっかりしたロードマップができ上がってきていると思う。難しいのは、今どんどん社会の中で技術が進歩している点。例えば、逆に二酸化炭素を燃料として利用し、水素と組み合わせしていく。これがもう臨海地域で始まっているし、自動車メーカーも始めている。このような新しい動きが次々出てくると思うので、政策をきちっと決めるのではなく、大まかな方向性を県がしっかりと持つのがよい。それで十分だろうと思う。

- ・ 特に最近この水素を社会実装していく中で、ピュアな水素だけでなく、他の形での使い方も提案されている。かつてのように学会、大学関係ではなく、もう今は完全に産業界が中心に動いている時代になりつつある。それを自治体、国が支えることが大事だと思う。
- ・ 最近の例で特にこれから大きく変わってくるのは、EV。フォルクスワーゲンがEVから遠ざかっていくような姿勢を今示している。これは地球環境問題を始め、色々な問題と複雑に絡んでくる。そのため、先ほど申し上げたとおり、政策をあまりリジットに決めず、大まかな役割を基本方針として持つておくことがとても重要だと思う。

【原田氏（東海大学）】

- ・ 今のキーワードはフレキシビリティ。水素がこれまでのような研究開発だけではなく、社会に浸透していく段階に入ったのではないかと思っている。そのため、水素ビジョンの策定において、民間と行政の区分けがよく明示されている。今後もフレキシビリティを持ちながら、策定を行っていくのがよいのではないかと思う。

（協議会后、原田氏から追加コメント）

- ・ この素案は、国の動向とこれに対応した県の姿勢や、県内の水素エネルギーへの取組状況がよく書かれており、大変興味深く読ませていただいた。
- ・ 15 ページでは、神奈川県全国に対する水素ステーションと燃料電池自動車の占有率が示されており、両者の占有率が7.6%と呼応していることなどからバランスのよい進捗が示されていると考えられ、県の状況がよく書かれており、大変評価できると思う。
- ・ 21 ページ以降の工業地帯などにおける取組についても、主要な活動が10ページにわたり書かれており、また、今後の県の取組についてもまとめとして、県内陸部では県が中心となり水素利用の面的拡大を図るという将来の見込みが記載されているので、よくまとまった素案であると思う。

以上